

令和4年6月30日

富士山頂で発見された日本新産属のラン藻地衣, *Arctomia*

teretiuscula タカネノリ (Arctomiaceae タカネノリ科)

富士山の山頂近くで採集した地衣類の標本が、これまで日本では記録の無かった地衣類のタカネノリ属であることが判明し、その詳細を明らかにしました。本研究の成果は2022年6月30日に日本地衣学会の学術誌「Lichenology」(ライケノロジー)にて公開されました。

研究の概要

2002年に当館職員の原田は、富士山の山頂付近で見慣れぬ地衣類を採集しました。当時は所属不明としておりましたが、最近になって標本を再検討したところ、これまで日本から報告の無い *Arctomia* (アークトミア) であることが判明しました。種としては、中国四川省から記録のあった *Arctomia teretiuscula* (アークトミア テレティウスクラ) と同定し、この標本の詳細な写真と記載を示しました。ラン藻(シアノバクテリア)を共生藻とする地衣類の和名には、「・・・ノリ」とつけることが多いことと、富士山頂から発見されたことから、この地衣類に「タカネノリ」という和名を付けました。

発表者名

原田 浩

本文の解説

原田は、環境省が実施する生態系多様性地域調査(富士北麓地域)(平成13～14年度)に地衣類の専門家として参加し、山梨県側から2002年に富士山に登りました。久須志神社からお鉢巡りのルートを右に進みまもなく噴火口側に反れて金名水のあたりを調査したところ、安定した岩の上で発見したのが問題の地衣類でした。

持ち帰った標本を実体顕微鏡下で観察すると、鱗片状の地衣類(図1)であることが分かりました。また、ラン藻(シアノバクテリア)を共生藻としていました。そのような形状の地衣類として、まず思い浮かぶのがハナビラゴケ科(Pannariaceae)ですが、胞子(図2)などが全く違う形態を示しました。この標本について、最近になって詳細に検討したところ、胞子等の特徴も、科・属と

も日本から記録の無かった Arctomiaceae (和名がなかったので、とりあえずアークトミア科と呼ぶ) の *Arctomia* (アークトミア) と一致しました。*Arctomia* は世界で 13 種知られていますが、*Arctomia teretiuscula* (アークトミア テレティウスクラ) と同定しました。

図 1. 富士山頂で見つかった問題の地衣類 (実体顕微鏡下)

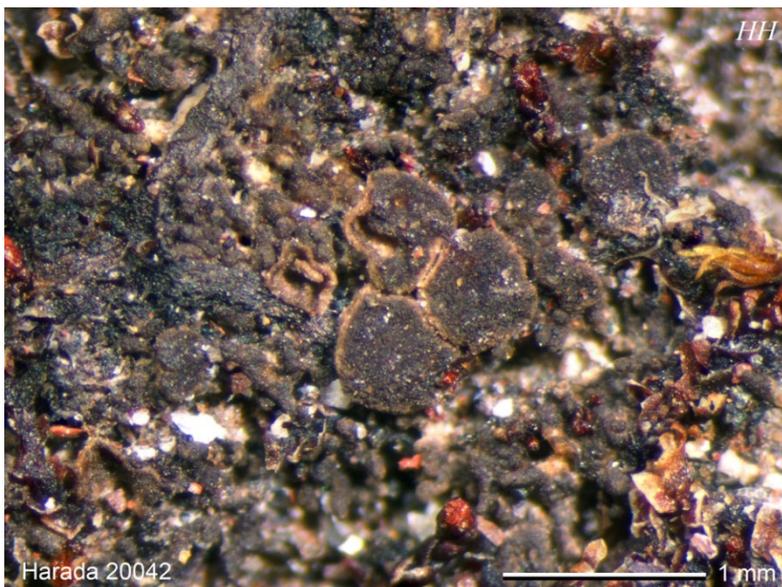
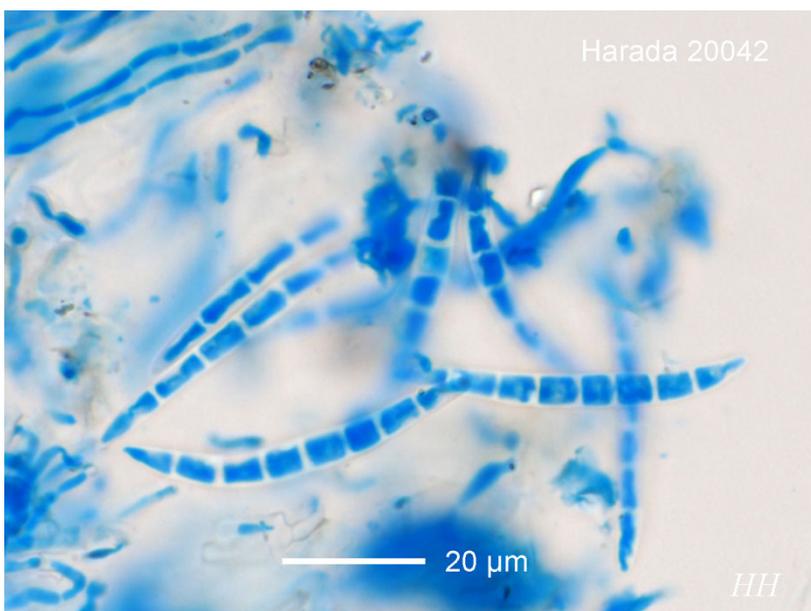


図 2. その地衣類の子嚢胞子 (ラクトフェノールコットンブルーで染色)



本種は、中国四川省で一度だけ記録のある地衣類で、その標本は氷河の近くで採集されたものでした。富士山頂に氷河はありませんが、非常に寒冷な気候である点では、この四川省の産地と共通しています。この種あるいはこの属が日本の他の地点にも産するのでしょうか？もしあるとすれば、気候条件から考えると、中部山岳地帯や北海道大雪山系などが有力と思われます。

なおこの標本の画像は、デジタルミュージアムのコンテンツ「日本の地衣類（ウェブ図鑑）」にも掲載しています。種名（学名）から探してください。

https://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/special/chii_nihon/nihon-top.html

発表雑誌

雑誌名：「Lichenology」（ライケノロジー）20 巻 1 号、9-11 ページ

論文タイトル：「富士山頂で発見された日本新産属のラン藻地衣，*Arctomia teretiuscula* タカネノリ（Arctomiaceae タカネノリ科）」

著者：原田 浩

関連する事業・研究課題

普遍研究課題「地衣類の多様性に関する研究」・科研費基盤研究（C）「日本産地衣類の総合的なデータベースの整備とウェブ公開」（仮題番号 21K01006）

お問合せ先

千葉県立中央博物館 上席研究員 原田 浩

〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町 955-2

TEL：043-265-3111

E-mail：harada@chiba-muse.or.jp